

慢性肝疾患における肝血流と

肝線維化、門脈圧亢進症についての検討

京都府立医科大学消化器内科では、慢性肝疾患の患者さんを対象に肝血流と肝疾患の状態に関する臨床研究を実施しております。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

慢性肝疾患では、病気の進行とともに徐々に肝臓の線維化が進みやがて肝硬変に至ります。肝硬変には腹水、食道胃静脈瘤、肝性脳症、血球減少などさまざまな合併症がありますが、これらは肝臓へ向かう血管である門脈の圧力が高まることが原因となっています。この門脈の圧力（門脈圧）を直接測定する方法はないため、この研究では血液の性質や腹部超音波検査の結果から門脈圧を予想することを目的としています。また、予想した門脈圧と肝硬変の合併症との関連を分析することで治療方法の選択や、リスクの高い患者さんを発見することを目指します。

研究の方法

・対象となる方について

医学倫理審査委員会承認後から2024年3月31日までの間に、京都府立医科大学消化器内科で慢性肝疾患の診断を受けられ通院中の方

・研究期間： 医学倫理審査委員会承認後から2026年3月31日

・方法

当院消化器内科において慢性肝疾患の診断を受けられた方で、診療録（カルテ）より以下の情報を取得します。肝硬変の合併症の発症と取得した情報の関連性を分析し、予想した門脈圧が正しいかどうか調べます。

・研究に用いる試料・情報について

年齢、性別、生年月日、診断名、既往歴、薬物歴、採血結果、腹部超音波検査の結果

など

・外部への試料・情報の提供

大阪鉄道病院へ情報を郵送で送付し更に詳しい解析を行う予定です。提供の際、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し、提供させていただきます。

・個人情報の取り扱いについて

患者さんの測定結果、カルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、入室が管理されており、第三者が立ち入ることができません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者（京都府立医科大学 消化器内科学教室 山口寛二）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

研究組織

研究責任者

京都府立医科大学 消化器内科学教室 講師・山口寛二

研究代表（統括）者

大阪鉄道病院消化器内科 医長 石破 博

共同研究機関

福知山市立福知山市民病院消化器内科 原祐

京都第一赤十字病院消化器内科 藤井秀樹

研究担当者

京都府立医科大学消化器内科・教授・伊藤義人

講師・森口理久

講師・山口寛二、

学内講師・榎村敦詩

助教・瀬古裕也

お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2025年3月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

京都府立医科大学消化器内科

職・氏名 助教・瀬古裕也

電話：075-251-5519